

# JASIS

## NEWS

# No. 45

2009/8/10

## 日本インテリア学会会報

### ■インテリア学会長より

#### 新年度を迎えて

会長 高橋鷹志（東京大学名誉教授）

当学会設立21年目は5月30日に開催された総会によって幕を開けました。平成20年度事業報告・収支決算報告及び平成21年度事業計画・収支予算の二つの議案が理事・評議員会で議論され、承認されました。

続いて今年度の行事に関して議論が進められました。研究協議会の部会の数が多いことや統合が必要とのことから、「計画・構法部会」、「デザイン部会」、「住宅部会」を統合し「計画部会」とする方針が合意されたのです。次に創設20周年記念事業としての「学校用家具コンペ」について議論され、藤村盛造氏を委員長として具体案を作成することになり、当初より余裕のあるスケジュールで、今年の8月頃募集案を公表し、来年3月に応募を締切り、その後、入選案の試作品を作り、大会（平成22年）時に優秀賞を決定する方向で進めることが合意されました。

今年の大会は棒田北陸支部長（金沢学院大学）が大会長を引き受けて下さり、10月24日、25日に開催することが了承されました。更に来年2010年はAIDIAの日本大会の年に当り、学会大会と同時に開くことを関西支部長の小宮容一先生より提案戴きました。その為には、前回のよう赤字を生まないような予算措置や寄付集めを進め

る必要があり、そのための具体案について会員各位からの提案を頂戴したいと存じます。当学会とは桁外れの規模の中国・韓国からの参加者への対応について早急に議論を詰める必要があります。

もう一つの記念事業である「コンパクト建築設計資料集成—インテリア」については、総務委員に渡辺秀俊さん（文化女子大学）を加えて話し合いの場を持ち、直井英雄氏（東京理科大学）を委員長として、企画・編集作業を進めることに致しました。またこの出版に関して丸善も合意しております。現行のコンパクト版を改めて開いてみると、例えば住宅について、平面図・断面図のみの記載で、インテリアの表現として不十分であることが確認できました。

この原稿を書いている折、日本建築学会の「建築雑誌」6月号が送られてきました。今回の特集が「インテリアを語る」であり、早速、目を通したのです。ところが解題のなかで「…といったデザイナーが今までの系譜とは異なるところから、ある種の装飾性を携えて、一匹狼的に台頭してきた」とあるように「商業空間」の「デザイナー」の話題だけを取り上げていることが気になりました。かねてより企画されている「インテリア学大系」の出版計画を進めて、当学会における「インテリア」概念の定義を世に問う必要を感じたのです。

今年度は、役員あるいは会員の方々の御協力を戴き、当学会活動を充実させて行きたいと願って新年度の御挨拶と致します。



古い木造学校校舎（外観、熊本県小国町杖立）  
全国でも次々と失われつつある今、学校再考の機会



古い木造学校校舎（外観、熊本県小国町杖立）  
講堂兼体育館の内部、小屋組みに意欲が見える

## ■平成21年度日本インテリア学会大会のご案内

北陸支部長／実行委員長  
棒田邦夫（金沢学院大学）

本年度の大会は10月24日（土）～25日（日）に金沢で開催します。金沢は12年前の第9回大会とは街の様子も様変わりし、新旧調和のとれた魅力的な街へと生まれ変わりつつあります。大会委員長の山口征三（金沢学院大学）氏、前回の大会委員長小松暁一（金沢美術工芸大学）氏を中心に、北陸支部の多くの方々のご尽力の下、金沢らしい文化を伝える大会にしようと準備を進めています。

そのひとつ講演会は、金沢文化よりインテリアを語るシンポジウムを企画中です。見学会は、伝承技術をもつ古い建物から街の景観に溶け込んだ新しいパブリック建築の見学を予定し、懇親会では様変わりした金沢の夜景を見ながら、金沢の伝統芸能の一端を堪能していただくという計画しております。また、金沢市内から車で20分のところに夢二が好んだ温泉郷もありますので、ぜひお立ち寄りなさってはいかがでしょうか。

25日（日）は、高台に建つ金沢学院大学・短期大学で口頭および作品発表を予定していますので、多くの会員の方々のご参加をお待ちしております。

お問い合わせ先：金沢学院大学内棒田研究室  
Tel: 076-229-8884 Fax: 8730または 8718  
Mail: i.hokuriku@gmail.com  
Home page: <http://1024hokuriku.web.fc2.com>（作業中、8月にはアップ予定）

## ■第6回AIDIA日本大会・第22回学会大会実行準備委員会発足

関西支部長 小宮容一（芦屋大学）

本誌の「支部報告」(P.05)に報告いたしました事情を受け、去る6月25日 pm 6:30より宝塚造形芸術大学梅田

キャンパスにおいて16名の会員の出席を得て、「第22回学会大会・第6回AIDIA日本大会実行準備委員会」を立ち上げました。基本方針は第6回AIDIA大会と第22回日本インテリア学会を同時開催とすることで、多くの参加者を募ることと、経費を節減することにあります。

「第22回学会大会」は大阪樟蔭女子大学が担当し、大会長を同大教授の郷力憲治氏が務めます。「AIDIA日本大会」は加藤力氏（宝塚造形芸術大学大学院教授、当学会国際委員会委員長）が務める予定です。

会議では、それぞれの大会の事業内容を確認し、組織の概略を検討し、各組織の長を仮決定しました。（詳しい内容は次の機会に報告します。）次回の会議（7月23日）にそれぞれの事業の詳細と、予算を持ち寄ることとしました。私としては、収支予想が合わなければ大会そのものの開催することはできないと考えています。

会場は、大阪市中心公会堂（旧中之島中央公会堂）を候補に進めますが、1年前の申込み、申込みが重なれば抽選といった不確定要素があります。2010年の10月の土曜日、日曜日の申し込みを検討中です。

以上、第1回の実行準備委員会の報告です。AIDIA日本大会は関西支部を中核として実行して行きますが、全国の学会員の方々の協力なくては、成功はないとも考えています。いずれ大会運営への参加や、大会参加のアナウンスをいたしますので、その折には、ご協力お願い申し上げます。

## ■日本インテリア学会 第16回卒業作品展(案)

教育部会長 河村容治 (東京都市大学)

2009年10月19日(月)～25日(日) 10:00～16:30

場所: 金沢学院大学 5号館

### 第16回 卒業作品展・巡回展

協力: タチカワブラインド

2009年10月28日(水)～11月7日(土) 日月祭休館

10:00～18:00 ※最終日16:00まで

会場: タチカワ銀座 スペースAtte

104-0061東京都中央区銀座8-8-15青柳ビル

タチカワブラインド銀座ショールーム内

tel.03-3571-1373 JR・銀座線新橋駅より徒歩5分

### インテリアフェスティバル2009ギャラリー作品展

主催: 社団法人インテリア産業協会

共催: 日本インテリア学会

2008年11月18日(水)～11月21日(土)

会場: 東京ビッグサイト西4ホール

巡回展として16回卒業作品展の作品が展示されます

巡回展に関するお問い合わせ

東京都市大学都市生活学部

日本インテリア学会教育部会長 河村容治

TEL03-5760-0104・kawayoji@tcu.ac.jp

## ■日本インテリア学会 第16回卒業作品展出品校一覧(担当教員・助手)

### 大 学

- ・ 拓殖大学工学部工業デザイン学科 白石照美
- ・ 名古屋工業大学工学部建築・デザイン工学科 北川啓介
- ・ 日本大学工学部建築学科 市岡綾子
- ・ 東京電機大学工学部建築学科 小林千穂子
- ・ 広島工業大学環境学部環境デザイン学科 村上 徹
- ・ 京都女子大学家政学部生活造形学科 片山勢津子
- ・ 大阪産業大学工学部建築・環境デザイン学科 ぺリー史子
- ・ 文化女子大学造形学部住環境学科インテリアデザインコース 長山洋子/土屋裕子

- ・ 女子美術大学美術学部デザイン学科環境デザインコース 横山勝樹
- ・ 東京理科大学工学部第一部建築学科 栢木まどか
- ・ 広島大学工学部第四類 建設・環境系 建築グループ 岡河 貢
- ・ 名古屋造形大学建築空間デザインコース 八代美智子
- ・ 愛知県立芸術大学美術学部美術科デザイン専攻 野田理吉
- ・ 武蔵野美術大学造形学部工芸工業デザイン学科インテリアデザインコース 三澤直也
- ・ 駒沢女子大学文学部空間造形学科 村口峯子
- ・ 宇都宮大学工学部建築学科建築学コース 三橋伸夫
- ・ 金沢美術工芸大学デザイン科環境デザイン専攻 角谷 修
- ・ 東京家政学院大学家政学部住居学科 大宮司勝弘

### 短期大学

- ・ 共立女子短期大学生生活科学科 岡田 悟
- ・ 金沢学院短期大学生生活デザイン学科スペース&インテリアコース 河内久美子

### 専門学校

- ・ 中央工学校建築室内設計科 岡部公一
- ・ 環境造形学園専門学校ICSカレッジオブアーツ  
インテリアアーキテクチャ&デザイン科、インテリアデコレーション科、インテリアマイスタートレイニー科 木村昌弘

### 高等学校

- ・ 岐阜県立高山工業高等学校建築インテリア科(1,2年)、インテリア科・建築科(3年) 室谷伸治
- ・ 宮城県工業高等学校インテリア科 大出光一
- ・ 長野県木曾青峰高等学校インテリア科 高木豊明/横沢 迪
- ・ 青森県立青森工業高等学校インテリア科 工藤武彦
- ・ 富山県立高岡工芸高等学校工芸科 佐伯高基
- ・ 千葉県立市川工業高等学校インテリア科 金子裕行
- ・ 熊本県立八代工業高等学校インテリア科 森 敏章
- ・ 鹿児島県立川内商工高等学校インテリア科 滝下昌人
- ・ 宮崎県立都城工業高等学校インテリア科 田中義雄

## ■平成20年度運営委員会だより

### □総務委員会

委員長 上野義雪 (千葉工業大学)

今年度の総会は、5月23日(土)千葉工業大学において開催され、平成20年度の活動報告並びに決算、そして21年度の活動計画、予算案に関する議案の承認を得ることができた。しかし、当学会における諸活動には多くの課題と検討事項があり、学会活動が活性化するよう、定期的な総務委員会の開催と、各支部・各部会・各委員会のサポートを考えている。課題としては、正会員数(特に若手会員)や賛助会員数の増加、会員相互のコミュニケーションの活性化等があげられ、学会活動として大きな意味を持つ学会大会、論文集、会報、学生作品の表彰等をさらに充実させることが重要と考えている。これらは各部会や各委員会のもと進められているが、これらの活動についても適切なサポートを心がけている。

また、今年度は20周年記念イベントとして、学校用家具のデザインコンペティションを実施するが、この事務局として事業の成功に向けて対応する計画である。

### □広報委員会

委員長 湯本 長伯 (九州大学大学院)

#### 1) 事務ホームページの更新を行った。

皆様の情報提供を、引き続きお願いします。

またホームページのURLは、

<http://design.kyushu-u.ac.jp/~ymtlab/JASIS/>です。

#### 2) 学会メールニュースの試験発行を続けています。

最新30号は大会参加のお勧め、会報45号、ほかです。

皆様の一層のアドレス登録を、お願い致します。

<http://design.kyushu-u.ac.jp/~ymtlab/JASIS/mailnews.html>

#### 3) 会報発行が遅れました。お詫び申し上げます。

総会后2か月を要しましたが、秋の大会に向けて、種々の情報をお届け致します。

<http://design.kyushu-u.ac.jp/~ymtlab/JASIS/45.pdf>

### □国際委員会

委員長 加藤 力 (宝塚造形大学)

AIDIAアジアインテリアデザイン学会関係の記事が、関西支部(P. 2, 5)の項にありますので、ご参照下さい。

### □論文審査委員会

委員長 直井英雄 (東京理科大学)

「日本インテリア学会論文報告集19号」が、年度をまたいではしまいましたが、すでに発行されたことはご承知のことと思います。本号の論文数は8編でした。ちょっと気が早いかも知れませんが、次号もぜひたくさん応募していただきたいものと考えております。締め切りは、例年どおり11月末日です。

もうひとつご報告すべき件は、「AIDIA Journal」改め「International Journal of Spatial Design and Research」第9号の応募論文の国内審査についてです。幸い、本年も数編の応募があり、現在、国内審査を進めようとしている段階になっております。なお、これについても、来年同時期に論文募集があるものと思われますので(JASISが発行の担当になるかもしれません)、その気のある方は今から心づもりをしておいてください。

## ■支部だより

### □北海道支部

支部長 小林 謙 (北海道東海大学)

今回はありません

### □東北支部

支部長 若井正一 (日本大学工学部)

平成20年度東北支部総会及び関連行事が、平成21年3月7日(土)に日本大学工学部(郡山市)で開催された。関連行事として、第4回研究報告会が開催され、以下に示す基調講演と、研究論文7題が発表された。終了後、市内で懇親会が開催された。

\*\*\*\*\*

#### ◇基調講演

「スコットランド・エコビレッジの視察報告  
～環境共生型社会とインテリア～」

早野由美恵 (HAYANO)

#### ◇研究報告座長：山添英順

1. 安全性からみた階段等の昇降動作に関する人間工学的研究～明るさが段差の視認性と昇降動作に与える影響について～  
久米幸雄 (日大大学院)

2. 写真美術館の実態からみた展示方式にする研究



～管理運営上の諸問題と作品展示の視覚的特性～

米田亜耶子（日大大学院）

3. 開口部における歩行者の出入行動に関する人間工学的研究～扉の開閉負荷が出入行動に与える影響について～

金子慶太（日大大学院）

4. 多人数が出入りする店舗などにおける客の行動特性に関する研究～飲食店を事例とした来店客の座席選択傾向について～

今井健太郎（日大大学院）

5. 新潟県中越沖地震における被災実態報告  
～応急仮設住宅の実態と問題点～

飯田裕樹（日大大学院）

6. オープンスペースをもつ小学校における児童の遊び行動と空間特性

三浦 泉（日大大学院）

7. アルゼンチンにおける現代建築の特質に関する一考察～ブエノスアイレス市のラボカ居住地の光と影について～

森マリア（日大研究生）

## □北陸支部

支部長 棒田邦夫（金沢学院大学）

今年度は年明けより金沢大会の大会テーマや見学会について支部会員の方々と話し合う機会が多く、今年度ばかりは支部の事業が金沢大会一色となっています。

（関連記事 P.02～）

まだ支部総会は開催されていませんが、金沢大会が開催されるということで事業のひとつに会員増強と学会啓蒙に励みたいと考えております。ともあれ、この金沢大会が支部会員の、さらに交流を深める機会にしたいと願っております。

## □関東支部

支部長 岡田 悟（共立女子短期大学）

関東支部の最近の活動を報告します。

1) 講演会「インテリア工事標準仕様書の解説」

講師：小原誠氏（インテリア工事標準仕様書委員会代表）

日時：平成21年6月17日（水）18時～20時

場所：文化女子大学（新宿）

参加者：13名

内容：インテリア工事標準仕様書は、インテリア産業協会の支援を得て、インテリア関連4団体の協議により2000年末から編集を始め、公的に使用できる仕様書として刊行された。本来は工事のための仕様書であるが、設計にも役立つ内容であり、解説文・解説図をセットとなっている。

今回はインテリア工事標準仕様書委員会代表を務められた小原誠先生を講師にお迎えし、本書の核心をふまえた解説をおうかがいすることができた。

2) 現代インテリア研究会の調査

日時：平成21年3月30日（水）

場所：拾庵（石井和紘氏自邸）、長谷木記念幹

現代の先進的なインテリアを研究、分析するワーキングの一環として、上記2作品を見学、調査した。

## □東海支部

支部長 建部謙治（愛知工業大学）

CIP、JIA、JID、AIAと連携したインテリア連絡会では、下記の日程で学校の建築見学会を実施した。見学先の名古屋市立植田東小学校は名古屋の小学校では珍しい本格的ワークショップを開催、設計者選定プロポーザル審査を経て建設された。木質材料をふんだんに使用し、施設それ自体が環境教育の教材になっている。

日時：平成21年6月19日（金）

見学先：名古屋市立植田東小学校名古屋市天白区

参加者：20名

内容：生徒の下校に合わせて校内を見学し、設計者の原宏氏（藤川原設計）に計画概要の説明を受け、施設を見学

なお、今回は第5回リレーセミナーとして、10月30日（金）名古屋栄ガスビルにて、名古屋工業大学河田克博先生による講演会を予定している。

## □関西支部

支部長 小宮容一（芦屋大学）

4月16日付で、高橋鷹志会長から、正式に「第22回日本インテリア学大会及びAIDIA日本大会同時開催」の依頼書を受けました。昨年AIDIA中国大会の後、出席された加藤力副会長から、次は日本で開催とは聞いておりました。私の内心では、2006年に宝塚造形芸術大学で開催して間も無いので、別の支部で担当して開催していただければと思っていました。しかし、会長からの関西支部で担当の依頼でありました。私の一言で決めれることではありませんので、5月23日（土）に支部評議委員会を開催し、議論、大筋で関西支部開催を決定しました。以下はこの議案を含む平成21年度第1回評議委員会の議事録の抄録です。

2009年5月23日(土) 16:00~17:00

阪急インターナショナルホテル 1階カフェテラス

出席者：石橋 実、植松暁子、大江孝、片山勢津子、加藤 力、郷力憲治、小宮容一、塚口真佐子、中村孝之、ペリー史子、井上 徹（オブザーバー）。

1. 平成20年度活動報告、会計報告
2. 平成21年度活動計画  
見学会、講演会、webの充実等。
3. 平成22年度の学会大会及びAIDIA日本体系を関西で同時開催する件。
  - ・担当校を大阪樟蔭女子大学の依頼
  - ・会場候補として中之島公会堂も検討

※次回 第22回学会大会・AIDIA日本大会実行委員会（仮）の発足会議／平成21年6月25日（木）18:30～／宝塚造形芸術大学 梅田サテライト 以上。

議事録は関西支部web：<http://www.jasis-kansai.jp>に掲載有り。

## □中国四国支部

支部長 大森豊裕（近畿大学工学部）

今回はありません

## □九州支部

支部長 車 政弘（九州産業大学）

今年度の九州支部の活動は特に計画していませんが、九州産業大学美術館の企画展についてお知らせしたいと思います。毎年「歴史にすわる」というタイトルで九州産業大学芸術学部、及び美術館で購入した椅子の展覧会を企画し、今年で5回目となります。九州支部会員のみなならず、どなたでも見学ができますので、ご案内致します（九州支部には改めてご案内致します）。

企画展「歴史にすわる part.5」

会 期：2009年9月5日(土)～10月4日(日)  
10:00～17:30（入館は17:15まで）

会 場：九州産業大学美術館  
〒813-8503 福岡市東区松香台2-3-1

アクセス：JR「九産大前」駅下車徒歩5分  
西鉄バス「唐の原」バス停下車 徒歩5分  
車 福岡都市高速 香椎出口より3分

連絡先：092-673-5160（美術館）

[mail address:ksumuseum@ip.kyusan-u.ac.jp](mailto:ksumuseum@ip.kyusan-u.ac.jp)

<http://www.kyusan-u.ac.jp/ksumuseum/>

着椅子資料を中心に展示の予定です。

## ■研究部会だより

### □歴史部会

部会長 内藤 昌（愛知産業大学）

代表幹事 河田克博（名古屋工業大学）

下記の講演会を、盛況裡のうちに開催致しました。

参加者は73名で会場からの質問もあり、21世紀のデザインを考える上で有意義な講演内容でした。

講演会；「21世紀のデザインを考えるーモノと建築ー」  
主旨 21世紀に入り10年を迎えようとしている今、改めて上記のテーマを考える時期にきている。21世紀のデザインは、20世紀の延長に過ぎないのか、あるいは新しい動きが出てきているのか、将来の動向を予測するためにも必要な関心事であろう。

主 催：日本インテリア学会歴史部会

共 催：日本建築学会東海支部歴史意匠委員会

講 師：柏木 博（武蔵野美術大学教授）

日 時：7月4日(土) 13:30～17:00

会 場：名古屋工業大学共1講義室

（JR中央線「鶴舞」駅より東へ徒歩10分で正門）

定 員：150名（先着順） 参加費 無料

問合せ：〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

名古屋工業大学 建築・デザイン工学科 河田克博

[E-mail: kawata@nitech.ac.jp](mailto:kawata@nitech.ac.jp)

TEL/FAX 052-735-5512

### □デザイン部会

部会長 佐戸川清（㈱ゼロファーストデザイン）

デザイン部会では本年度も、インテリアに関する情報の発信と国内外で開催されたイベントの状況を写真と解説を加え編集し配信致しました。一つのイベントでの取材は、写真、ビデオと合わせてかなりの資料となります。メールでの配信ということもあり、その中からほんの一部を紹介することしか出来ないのが残念です。今後、こうした情報をインテリア学会の方々に見て頂ける機会が作れればと考えています。

## □計画・構法部会

部会長 栗山正也(KDアトリエ)

計画構法部会09年度の課題

### 1. 研究部会としての課題

前年度末、総務委員会から研究部会再編案が提示され、理事会でも議論されました。

従来から、現状の部会活動には限界があり、改革が必要と感じていましたが、単に部会を統廃合し数を減らすことで解決するとは思えません。現実には教育部会のように良い形で全国組織として機能している部会もありますが、他は活動していても局地的あるいは限定的にならざるを得ないのが実情です。学会の研究部会として、会員に広く利益をもたらす、あるいは学会の主張として外部に発信できる確たる成果物を得るような方向を期待できる状況ではありません。

そこで試案です、常設部会は全国組織として機能し、活動できる可能性のある部会に限る。他は、研究プロジェクト委員会を新設し、以下の事業を総括する。

〔事業〕としては

①会員から「調査・研究」の計画案を公募し学会にとって有益な計画案を選び助成する。②「委員会」が「調査・研究」テーマを提示し、それに応募してもらい、それを助成する。原則として期間は短期（2～3年）とし、その成果を確認し、広く公開する。など

「委員会」の役割は研究領域の活性化のための仕組みを積極的に推進することです。

このような組織が現況の学会にとって有効なのではと考えるのですが。

2. 「インテリア環境評価研究会」の活動経過については次号で報告いたします。

以上についてご意見、質問等あればメールにてお願いします。

[kdat1@sepia.ocn.ne.jp](mailto:kdat1@sepia.ocn.ne.jp)

なお編集委員会からオファーがあった、資格職能試験（インテリアコーディネーター）から見た、インテリアの仕事、職能、考え方の整理等については、今後の報告課題とさせていただきます。

## □人間工学部会

部会長 白石光昭（千葉工業大学）

今回はありません

## □教育部会

部会長 河村容治（東京都市大学）

前述(P.02)に卒業作品展の件で記載しております

## □CAD部会

部会長 川島平七郎（元東横学園短期大学）

今回はありません

## □住宅部会

部会長 直井英雄（東京理科大学）

今回はありません

## □インテリア学大系特別委員会

委員長 湯本長伯（九州大学大学院）

昨年の大会シンポジウムでも紹介した、この書の大きな枠組みが出来たところで、私の怠慢から止まっています。一方、「設計資料集・インテリア篇」の出版が、本学会の中で具体的な事業として進み始めました。ほかにも、「インテリア」の世界を見直しながら、新しい出版を考えようという動きが、ここ1年ほどで随分と出て来ています。こうした状況では、「インテリア学大系」に係る負担は軽くなり、「大系」として果たさねばならない部分は小さくなって、むしろこれまでの議論にもあった、「インテリアとして必須、あるいはもっとも特徴のある部分にフォーカス」して、その部分だけでも早く出したほうが良いのではないかという姿勢に大きく傾きました。またこれは、多くの建築書がある中で、どうしても少くない部分が重なってしまう「インテリアの本」として、出版という現実の中での選択肢としても、動きやすい方向かと思います。

そこで現在、出版社とも相談しながら、どの程度の内容をどのような形式で出すことが可能なのか、具体的な相談をしているところです。

目次案というほどではありませんが、現状で入れておきたい、あるいは入れたほうが良いという内容を列挙したものを、参考までに掲載致します。

### 1. インテリアという考え方

（考察と設計と活用の対象とする環境の範囲はどこまでか）

### 2. インテリアのプログラムとプロセッシング

- (予言と予設で造る生活空間)
3. ヒトモノクウカン一体の生活行動をデザインする  
(行動の容器、行動の規範、行動の演出)
  4. 空間行動学とインテリア学  
(インテリア行動史に向けて、モノとクウカンに対してヒトが感じ行動すること)
  5. 室空間という生活舞台の系譜  
(インテリア空間史に向けて、プランニングとデザイン)
  6. 室を造る建具の系譜  
(インテリア構工法史に向けて、納まりと空間)
  7. インテリアとエクステリア 色彩と照明  
(生活を楽しむデザインの広がり)
  8. デザイン内容とデザイン表現の対応  
(インテリア図面・デザイン図書の在り方)
  9. 都市・建築の変化とインテリア空間の今後  
(生活空間の変化と今後への提言)
  10. 日本インテリア発達史 (産業工芸試験所と百貨店から陶器メーカーまで)
  11. まとめ

## ■ 出版計画の現況 (コンパクト設計資料集成)

コンパクト建築設計資料集成<インテリア篇 (仮称)>について

幹事 渡辺秀俊 (文化女子大学)

春の総会時に高橋鷹志会長からお話があったように、日本建築学会で編纂している建築設計資料集成のコンパクト版として、インテリア編を出版する企画話が出版元の丸善からありました。そこで、高橋鷹志会長のもとに2009年6月15日に準備会議が開催され、直井英雄先生 (東京理科大学) を委員長として、日本建築学会の中に編集委員会を設置することになりました。その後、2回の編集会議を経て、現在、全体の目次構成について検討を進めています。

コンパクト版という性格から、基礎的な知見については既刊の設計資料集成から収集・再編することとし、新たに設計事例 (設計の考え方を含む) をより豊富に掲載することで、この領域の特徴を出せないかと検討中です。

この会議でも、「インテリア」という用語について多くの時間を割いて議論がなされ、ことの難しさを実感いたしました。出来上がった書籍の性格によっては、書籍

名は「インテリア」とは別の呼称となる可能性もあります。いずれにしても、本学会の事業である「インテリア学大系」との連携を意識して作業を進めることで、「建築」に対する「インテリア」の立ち位置を明確にし、2つの書籍が「インテリア」に対する認識を広く社会と共有する契機になることを願っています。

刊行予定は2010年10月という短い作業時間ですが、今後、本学会員の皆様からも、編集委員としてのご参加、設計事例のご提供、様々な視点からのご意見等を賜ることとなるかと思えます。その節は、何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

## ■ 平成21年度 理事会・総会記録

### ■ 平成21年度総会議事録 (案)

日 時：平成18年6月9日 (土) 13:00~14:00

会 場：千葉工業大学

議 事：

1. 開会宣言 (白石総務担当)
2. 会長の挨拶 (高橋鷹志会長)
  - ・インテリア学会も21年目になり、目標の言葉 (キーワード) を見つけていく必要がある環境になった。
  - ・インテリア学大系、学校用家具コンペ、コンパクト設計資料集成の仕事が進んでおり、時間はかかるが楽しみである。
  - ・個人的な意見ではあるが、公共空間のインテリアへの関心を深めていくべきであろうと考えている。
3. 定足数の確認 (白石総務担当)
  - ・正会員数450名、委任状201名、出席者数28名であり、総会成立に必要な定足数 (正会員の1/4以上113名) を満たしていることが確認された。
4. 議長団の選出 (白石総務担当)
  - ・議長：直井英雄
  - ・書記：白石光昭
  - ・議事録署名人：建部謙治、八田一利
5. 第1号議案 (平成20年度事業報告および決算報告の件)
  - ・上野義雪総務委員長より、平成20年度の事業報告および決算報告があった。
  - ・各経費の節約努力等のおかげもあり、繰越金3,823,066円となったが、一方各部会の活動費の請求が少ないことは学会活性化に向けて心配でもある。
  - ・上野弘義監事および佐藤公信監事が欠席のため、西出和彦事務局長が両監事の監査報告を代読し、H20年度



事業報告・決算報告は承認された。

6. 第2号議案（H19年度事業計画及び収支予算の件）
- ・上野義雪総務委員長より、平成21年度の事業計画及び収支予算について説明がなされ、承認された。
- ・予算については、昨年度の実績をもとに勘案したもので、予算規模は会員数の減少に伴い、前年度に比べて縮小した。

#### 7. その他報告事項

##### 1) 平成21年度日本インテリア学会大会

- ・棒田邦夫大会実行委員長から、平成21年度日本インテリア学会大会の準備状況について以下の報告があった。
- ・10月24日(土)～25日(日)に金沢学院大学で開催する。
- ・1日目は見学会、理事会、シンポジウム、懇親会、2日目は口演発表会、講演会、作品展の予定である。シンポジウムのテーマは、「建築空間以外のエクステリアとインテリアを考える」を考えている。

##### 2) 20周年記念事業「学校教室用家具デザインコンペティション」の概要説明（白石）

記念事業として、前回の理事会で出ていた20周年記念事業について、今後の日程概要が説明され（応募締切りは2010年2～3月頃）、学生等の応募の依頼をお願いした。なお、審査委員長に藤村盛造氏に依頼したことも紹介された。なお、可能であれば、優秀何点かを選抜後試作を行い、試作品をもとに最終の優秀作品を決定する可能性もあることが説明された。

##### 3) 次年度AIDIA大会

平成22年度大会と同時開催で関西支部で引き受けた。ただ、一支部では対応できない点も多く、各所からの協力を得たい。まずは、AIDIA実行委員会の立ち上げをし、進めていきたいので、協力をお願いしたい。

## ■平成21年度総会・シンポジウム記録

今年度のシンポジウムは「インテリアと私」と題し、小原誠先生、日原もとこ先生、島崎信先生の3人の方から、これまでの各先生の活動をもとに得た知識や経験談をもとにインテリアへの思いをご講演いただいた。以下に概要をまとめた（講演順）。

##### 1) 日本の引戸文化（小原誠先生）

日本ではごく普通にみられる引戸であるが、実は日本独特の建具である。引戸は平安時代に発生し、鎌倉時代に広く普及した。引戸の普及により、プライバシーをハードで規定するのではなく、タブーにより規定するといった具合に空間感覚にまで影響をお呼びしており、大変興味深い。

引戸が普及した理由には、①壁の少ない架構による風

通しの良い開口部が必要であったこと、②通直な杉・ひのき材が日本に多かったこと、③すぐれた大工が大勢いたことがあげられる。

##### 2) 日本人固有の色彩感覚を求めて（日原もとこ先生）

これまで行われてきた仕事の内容をお話しされ、インテリア関連の研究をされるようになった経過をお話しいただいた。その中で、オーストラリアへの留学で日本の良さを認識できたとのことであった。

最近のインテリアに関しては、西洋の美学に基づいて日本のインテリアが作られているようであり、問題意識を持っている。

また、現在世界のトップデザイナーが渋谷を見に来るそうだが、「カワイイ」文化をみていく。しかし、現在の若者は「かわいい」や「かっこいい」といった言葉ですべてを表してしまう傾向があり、同様に問題意識を持っている。上記2点に対して、「日本人固有の色彩感覚を求めて」、「現代若者の美意識は今どうなっているか？」の研究成果を紹介していただいた。

##### 3) インテリアと私（島崎信先生）

敗戦の影響からか学生時代は教員の教えることに不信をもっていた。そこで、皆があまり関心を持っていなかったデンマークへ留学したが、このことが大きな影響を与えてきたとのことであった。デンマークでは、プロダクトもインテリアも建築もトータルで教育しており、横断的であったが、これは生活の場を考えれば当然のことである。しかし、日本では現在でも縦割りの教育が多い。

デンマークの教師には、デザイン事務所を開きなさい。デザインは日々の実践が大切だと教えられ、それを実践し、今でも事務所を継続している。このことがトータルな見方を育ててくれるものと信じている。

武蔵野美術大学では、日本で初めてインテリア学科を作った。また、日本インテリア学会の創設にも加わり、苦労もあったが、資源の少ない日本ではやはり知恵が必要である。デンマークは地下を掘っても水しか出ないため、知恵で生きている。日本も同様に知恵を大切にしていくべきである。

（文責：総務委員会・白石光昭）

(付 録)

## 平成20年度総会シンポジウム（抄録）

平成20年度総会のシンポジウムは、本学会創立20周年を記念して、『日本インテリア学会の過去・現在・未来』と銘打って行われた。

登壇者は3名で、まずは学会初代会長であり創立者、そして名誉会長である小原二郎先生、次に現会長である高橋鷹志先生、そして創立の実質的な労を担われ、また長く学会運営の実務を副会長として司って来られた渡辺優先生であった。

シンポジウムは、まずは小原名誉会長から始まり、10年ごとに研究テーマを更新されて、様々なことに取り組んで来られたことが話された。そして学会設立前後の状況の中で、学としても業界としても職能としても確立されておらず、これではいけないと決心されて、学会設立に取り組まれたことが話された。

高橋会長からは、常に新しいことに取り組まれて来た小原先生の熱意が、日本インテリア学会設立に結実したこと、また吉武泰水先生が創始した『計画学』の中で、かなり中心的なテーマに『インテリア』の問題が触れていることなどが話され、今後の学会発展に向けて、幾つかのトピックスが取り上げられた。

渡辺先生からは、長年の苦労話が尽きなかったが、まずは目標だけを掲げて突っ走る小原先生のフォローに、様々な工夫で取り組まれて来たことが話された。今後のインテリア学会や職能の在り方については、渡辺先生が取り組まれた『26人のインテリア』刊行に触れて、かつては余りにも多様な考え方があって、なかなかまとめることは出来なかったが、その多様性と可能性についてはむしろ期待が大きいと結ばれた。こうした学会の歴史を、良い形で引き継ぐことが必要であろう。

(文責：編集委員会・湯本長伯)



小原二郎先生



高橋鷹志先生



渡辺 優先生



西出和彦先生（記録）



3先生の鼎談

## ■連載『インテリアの行方』

### — DOCOMOMOとインテリア—

平田圭子（広島工業大学）

名称を聞いた覚えはあったが、最近DOCOMOMOの活動を具体的に知る機会があった。

DOCOMOMO（ドコモモ）：The Documentation and Conservation of buildings, sites and neighborhoods of the Modern Movementとは、「モダニズム建築に関する建物、敷地、環境の資料化と保存」のための国際組織である。1988年にオランダのアイントホーヘン工科大学で発足。2000年にDOCOMOMO Japanとして正式に加盟が承認されている。その後、DOCOMOMO Japanは日本独自の視点で日本のモダニズム建築のリストアップを20作品から100作品へ、現在は135作品まで行っている。選定の基本は、歴史的な記録や解説、現在の状況、社会的、技術的、審美的な基準も含まれている。そこにモダニズムを受け入れた日本独自にて生み出された思想や・構造・木造などの材料などが配慮されている。さらにその基準の範囲は地域性、年代、都市や景観、庭園、インフラ、土木建築、さらに改修や内装、家具、工業的な要素も対象である。

その幅広くなりつつある範囲に、「インテリア」は染みこんでいる。

「インテリア」自体の言葉の定義は広く捉える必要があると考えている。私自身も「インテリア」とは、人の心、あり方、生き方までを問うことができる、人為的につくられた一番身近な環境と考えている。よって、現在は室内にかかわらず、多くの人を取り巻く商店街全体の環境デザインを「インテリア」の視点から捉えて取り組んでいる。そこでは、人が生活する上での移動行為の中で、空間のヒエラルキーを貫き生み出す関係性を配慮している。具体的には、散歩や買い物行動の途中におけるストリートファニチュアのベンチのデザインのあり方から、商店街の後方にある戸建て住宅地の庭から連なる商店街の植栽計画、祭りなどで使用する大型商業施設の駐車場のアメニティの向上させるための時機により可変する空間デザイン等である。それは意匠的なものだけでなく、人の行為や心理を促すシステムが含まれる。時代に即して、超高齢社会の現在ではユニバーサルデザインの視点やエコロジーに視点も当然組み込まれる。

日本における、20世紀のモダニズム建築に関する建物、敷地、環境の資料化と保存の中に、「インテリア」の視点から捉えていったときに何が見えるだろうか。改修された建物もリストアップの対象となっている。以前の生

活行為に即した環境は消え去り、脱皮された新しい環境も評価されるのである。「インテリア」をその時代に生きる人の心、あり方、生き方に影響を及ぼす環境としたら、スケルトンから影響が及ぼされるものから、インフィルに関わる形に残りにくい変化していく環境も多く含まれると捉えることもできる。

内部空間に限らず、外部空間に置いても、また空間のヒエラルキーに融通無碍に変化しやすいインフィルのような短寿命の構成要素に次世代へ継承すべきものがあるのかもしれない。それは、空間の中のヒューマンスケールの分節なのか…コーデネートされた素材なのか…。DOCOMOMOを知ったきっかけに、時間の経過からみるその検証とこれからの「インテリア」のあり方を現在模索中である。

参考資料：

「DOCOMOMO 20 JAPAN 文化遺産としてのモダニズム建築展 ドコモモ20選」松隈洋・他編集  
文化遺産としてのモダニズム建築展実行委員会発行  
「approach」Spring 2009,株式会社竹中工務店編集・発行

### — ユーザー参加型のB&D住宅 —

平井康之（九州大学大学院）

最近取り組んでいるテーマのひとつに住宅デザインのプロセスがある。そのきっかけとなったのは、古巣のオフィスを覗いた時だった。

何年か前に私が働いていたアメリカのデザイン事務所アイデオのパロアルト本社オフィスを訪れた時、ゼロ20という部門のオフィスに感動した。これはもともと子供用のおもちゃデザインの子会社であった組織を改編し、0才から20才までのこどものライフスタイルを考えるグループにしたものである。入り口にはカラフルなアメリカの住宅のイラスト、木でできたデスクは立って作業するタイプで、道具やサンプルが散らかっている。おおよそ空間デザイナーが考えたものではないが、空間として独特のクリエイティブな雰囲気を持っている。もしここに日本の企業が引っ越してきたら…？そのようなことを考えた。

まず違和感があって仕事にならないだろう。ではなぜ？私の答えは、この空間が第三者によって完成されたものではなく、当事者の持続的な話し合いやトライによってできた空間であること、また人と空間と住まい方のルールが一体となって独特のオフィス文化が実現化されていることであった。この時の経験からフロントエンドでユーザー参加型の、住まいのデザインプロセスに興味を持ち始めた。当然、今でも住宅デザインのプロセス

においてユーザーニーズは反映されている。しかしユーザーと「ともに」デザインできているだろうか？ニーズを聞いて反映することとユーザーがプロセスに参加することで得られる効果は違うのではないか？また、後で変更、持続可能なデザインとしくみとはどのようなしくみであろうか？確かにSI住宅などの優れたアプローチはあるが、もっと他のアプローチはないのだろうか？

そこで注目しているのがB&D（ビルダー&デザイナー）住宅というアプローチである。これは施主と建築家と工務店をマッチングし、最も効果的な家づくりを実践するプロトハウス事務局の桑原あきら氏が提唱する考え方である。B&D住宅では、施主は、デザイナー（建築家）が提案した基本プランの中から自分の好きなテイストやある程度敷地条件にマッチしたものを選び、後はその基本プランを担当デザイナー（建築家）とともにカスタマイズしていくアプローチである。実施設計は工務店が行う。このアプローチで、桑原氏とともに研究テーマ

としているのが、建築家選定前のプロセスである。家を建てる前、建築家を選ぶ前に、プロトハウス事務局がコミュニケーターとなり、ユーザーとともにどのような家を建てたいか、視覚的に共有し明らかにしていく。そのようなフロントエンドの部分に、空間デザイン以前に明らかにすべき課題抽出とニーズの可視化があるのではないだろうか。さらに選ばれた建築家は、「作家」ではなくユーザーニーズの解決者（デザイナー）として指名され参画する。つまりハコからではなく、実現したい生活の場と、適切なインテリアエレメントとの関係性から発想していく。

そういう意味で、解決者としてのデザイナーは、ユーザー視点やインテリアエレメントに通暁したインテリアデザイナーの方がふさわしいと考える。作った時が完成ではなく、住まい手とともに変化していく空間づくりが理想である。

## ■ 編集後記

2009年度の第1号となる会報45号です。各執筆者の方々にはご多忙中に関わらず原稿を頂きまして、誠にありがとうございました。御礼申し上げます。平成21年度の理事会・総会記録を白石光昭先生（千葉工業大学）から頂き、又大会関係記事は実行委員長の棒田邦夫先生（金沢学院大学）から頂きました。私も学会を盛り上げる一助として？金沢大会に向けて論文投稿等の準備体制に入ろうと思った次第です。

今年度から広報委員を務めさせて頂くことになりました。お役目を頂き、より身近に学会を感じ、各支部や研究部会での活躍の様子も以前に増して気になってきました。私も何かお役に立てるようつとめさせて頂きたく

存じます。会報につきまして、ご意見・ご叱咤の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

（平田圭子）

### ■日本インテリア学会会報第45号（2009.8.10発行）

編集者：平井康之、平田圭子、湯本長伯

発行者：高橋鷹志（日本インテリア学会会長）

広報委員会：湯本長伯、渡辺秀俊、平井康之、  
若井正一、片山勢津子、平田圭子

### ■事務局

日本インテリア学会

事務局長 西出 和彦

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1

FAX：03-5841-8516